

39 Extra Target 2

願望を伝えよう

英語監修・出演 阿野幸一

（きょうの目標） 願望を伝えることができる

- 願望を伝えるには
- 仮定法で動詞が一般動詞の場合

（文法・表現） 仮定法過去

願望を伝えるには

次の文を見てみましょう。

① If I were a genius, I could think of a great idea.

（もし私が天才だったら、素晴らしいアイデアを思いつくのに）

これは、鳥縁屋の経営を立て直すために健がいろいろと考えている場面で健が言いたかった言葉です。彼は、「自分は天才ではないけれども、もしも天才だったら」という仮定の話として願望を述べています。現実の状況は次のようになります。

② I am not a genius, I cannot think of a great idea.

（私は天才ではないので、素晴らしいアイデアを思いつくことができません）

この2つの文を比べてみましょう。②は、健が「自分は天才ではない」と現実のこととして話しているため、現在形を使った文になっています。それに対して①の文は、「もし自分が天才だったら」と現実とは異なる願望を述べています。

このように「実際には起こりえないと思われる願望」や「現実とは異なること」を仮定して述べるときには、文の前半の動詞と後半の助動詞を過去形にして表現します。「もし～だったら、…するの（できるの）」という意味を表します。これを**仮定法過去**と言います。

なぜ仮定法で過去形を使うかというと、現在形は現在の事実を表すのに対して、過去形は現在の事実とは異なる内容を表すためです。そして、仮定法の文に **be** 動詞が使われる場合には、**I** や **he** や **she** などが主語のときには、口語では **was** を使うこともありますが、多くの場合 **were** を使います。**were** が使われるのは、より現実とはかけ離れた仮定を表す意識が働いたためと言われています。

もう1つ仮定法過去の文を見てみましょう。

If I were a billionaire, I could take you to the moon.

（もし私が億万長者だったら、私はあなたを月に連れていくことができるのに）

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

この文は、現実には「私は億万長者ではないので、あなたを月に連れていくことはできない」けれども、「もしも億万長者だったら」という現実とは異なる願望を表しています。

仮定法で動詞が一般動詞の場合

次の文を見てみましょう。

If I had one million yen, I would travel to Salar de Uyuni.

(もし私が 100 万円を持っていたら、ウユニ塩原を旅行するのに)

この文の前半には **be** 動詞ではなく一般動詞の **had** が使われています。この文は「実際には 100 万円なんて持っていないけれど、もし仮に 100 万円を持っているとしたら」という現在の願望を表しています。この文も仮定法の文のため、動詞は **have** ではなく過去形の **had** が使われていることに注意しましょう。

もう 1 つ例文を見てみましょう。

If I knew his address, I could write a letter to him.

(もし私が彼の住所を知っていたら、彼に手紙を書くことができるのに)

この文も「実際には彼の住所を知らないけれど、もし仮に彼の住所を知っていたら」という現在の願望を表しています。このため、動詞は **know** の過去形の **knew** が使われています。

あの先生のこの話!



英語力を伸ばすために

英語の学習には、単語を暗記したり、文法の規則を覚えたりすることは大切です。しかし、「単語なら単語」「文法なら文法」というように、実際に英語が使われる文脈とは切り離れた知識だけの勉強に時間を使い過ぎてはいないでしょうか？ このような学習に膨大な時間を使っているにもかかわらず、思うように英語のコミュニケーション能力が身につかないという人がたくさんいます。なぜでしょうか？

それは、単語や文法を知識として覚えてはいるけれど、どのように英語を使うかという点から学習をしていないことが原因です。単語や文法は、実際に使われている英語の中で意味を持つため、たくさんの英語に触れることが何よりも大切なのです。たくさんの英語を聞くことによってたくさんの英語の音に触れ、たくさんの英語を読むことによって単語や文法もさまざまな文脈とともに生きた知識として頭に蓄積されます。こうした学習方法が効果的なことは、さまざまな言語習得の研究からも実証されています。実際に英語を聞いたり、読んだりしてわかるようになったり、今まで以上に英語を話せるようになったり、書けるようになったりするのはもちろんのこと、英語の検定試験などの結果も大きく向上したという結果も出ています。

みなさんも英語を聞いてその内容を楽しんだり、英語で書かれた物語などを読んだりして、たくさんの英語に触れる機会を増やしていただけたらと思います。

